



笠松の「モラルセンス」偉人編 No.9



15才で父に代わって講義をした天才学者 笠松の偉人「角田 錦江：すみた きんこう」

笠松中央公民館の南西端に、とても背の高い石碑が建っています。(右の写真→) その石碑(墓碣銘：ぼけつめい)には角田錦江(すみた きんこう)の行跡が刻まれています。

角田 錦江は1803年(享和3年)に笠松に生まれました。幼い頃から学問を好み、飽きることなく学びました。15才になったときから、父親に代わって子弟に儒学を教えました。父親が19才で亡くなり、母親もしばらくして亡くなってしまいました。錦江はやせるほど悲しみました。その後、喬木(きょうぼく)塾という私塾を開き、多くの優秀な弟子を育てました。

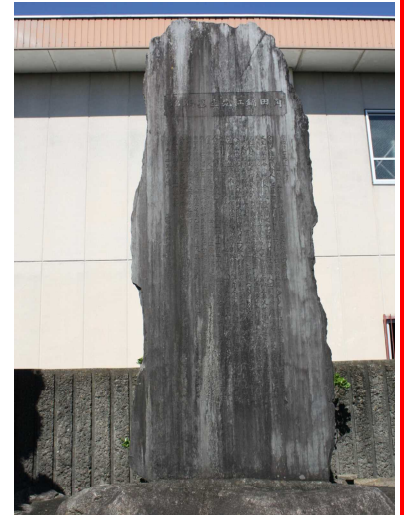
錦江には兄がいましたが、子どもが多く家計が大変でした。錦江は精一杯、兄の家族を助けました。その道徳的な行いは、近隣の村々まで伝わりました。美濃郡代の野田 斧吉は、錦江の様子を幕府へ手紙で伝えました。幕府もその行いにたいそう感心して、白金3枚(銀30両)という大金を錦江に与えました。

錦江は道徳的な行いと学問の深さから、名前が広く知られるようになりました。弟子の数も数百人になりました。その評判を聞いた成瀬犬山城主が、是非犬山へ来て学問を教えて欲しいとお願いしました。しかし、錦江は笠松を出て行きませんでした。尾張藩から誘いがあっても断ってしまいました。

錦江は、笠松にいて子弟の教育をすることが自分の務めだと考え、一生の間地元を離れませんでした。「田舎なので他によい先生がいないから、先生として讃えてもらっている。私は、ことわざに言う『鳥のいない里のコウモリ』なのだ。」と謙遜していました。

錦江は1884年(明治17年)に82才で亡くなり、盛泉寺(西町)に葬られました。

明治32年に教えを受けた門人が話し合い、石碑(墓碣銘)を建てて遺徳をしのびました。碑は初めは岐阜街道の西に建てられていましたが、後に今の場所(中央公民館の南西端)に建て替えられました。



↑笠松中央公民館の南西の碑



↑角田 錦江の写真

1803年～1884年

(錦江のお墓は角田家のお墓の一角にあります。)



↑盛泉寺(西町)のお墓

幼、保、小、中、高校生の皆さんからボランティア体験を募集します。ぜひ、お寄せください。また、町内で「ちょっといい話」を小耳にはさまれましたら、笠松中央公民館担当まで電話、FAX手紙、意見箱などの方法で、ご連絡いただくと幸いです。記事にさせていただくことがあります。なお、この「モラルセンス」は笠松町のホームページの「道德のまち」のバナーをクリックすることによって、第1号から最新号まで閲覧できます。ご活用ください。Tel 388-3926 FAX 388-3233